

ならやまプロジェクト報告会・レポ

千載 輝重

1月24日(火)13:00～ 中部公民館において、初めての「ならやまプロジェクト報告会」が開催された。参加者は35名。

ならやまでの活動を開始して16年。荒れ放題であった里山は見事に原風景を取り戻し、毎週木曜日の活動日には70名前後の会員が、その保全に努めている。活動開始当初ははるかに少ない会員が、ある日は山林に、ある日は畑作りに、ある日は草刈りにと、一体となって活動していたが、管理区域が拡大し会員の夢が広がるとともに、活動は多岐にわたり、現在は里山、エコファーム、景観、パトール、果樹の5つのグループに分かれての活動が主体となっている。一方、高齢化による活力の低下はこれまでの活動を維持するのを難しくしており、各グループともマンパワー不足状況にあって他のグループの活動に参加することも難しく、ならやまプロジェクトとしての一体的な活動を考える余裕もなくなっているように見える。

こうした状況にあって、これからのならやまプロジェクトのあり方を考えるためには、まず各グループのメンバーがその垣根を越えて、活動全体を理解し合うことが必要であるとの思いから、今回の報告会を企画した。

初めての試みでもあり、形式に縛られず、各グループには30分をお預けし、現状と今後についての考え方を分かりやすく説明いただき、参加者が自由に質疑できることを願って、進行を仕切ることは避けることにした。結果、それぞれのグループ活動への強い思い入れがやや冗長な説明につながり、当初3時間を予定していた報告会は4時間を経過しても不足し、後半の報告グループにはまことに申し訳なく、司会進

行役として怠慢であったと深く反省している。



各グループの説明内容は、ならやまでの活動の起こり、荒れ地から里山復元への苦勞、現在の具体的な活動内容、現状の課題と今後の活動についての考えなど、多岐にわたり、入会して4～5年までの参加者には初めて聞く話も多く、過去を知るいい機会にはなった。また、参加者は他のグループについて改めて知ることもあったと思われる。しかしながら、本来の目的であった自由な質疑の時間がほとんどとれず、ならやまプロジェクト全体として見つめなおす入り口にもたどり着けなかったために、かなりの消化不良となったことは否めない。

けれども、グループ間で交流し理解し合い、少しでもプロジェクト全体としての力につなげていくためには、こうした取り組みは今後とも不可欠だと考えている。まずは、消化不良の感が残っている近いうちに、今回の報告会に続く、質疑を中心とした集まりを企画したい。



報告いただいた各グループの皆さんはじめ参加いただいた皆さん、ありがとうございました。次の機会にはさらに議論が深まるよう努めますので、今後ともよろしくお願い致します。